

福岡ベルエポック美容専門学校×アルマリアンFUKUOKA(エスクリ)



学生生活の集大成としてリアルウェディングをプランニング

専門学校生がリアル結婚式をプランニング 会場側はインターンシップや研修でサポート

11月18日、福岡ベルエポック美容専門学校（福岡市博多区）ブライダル科2年生が中心となって手掛けたリアルウェディングが行われた。会場は、エスクリ（東京都港区）が運営するアルマリアンFUKUOKA（福岡市中央区）。学生のうちに“模擬”ではなく、リアルウェディングのプランニングを経験するのは、人材教育という観点でどのような意義を持つのだろうか。

エスクリはインターンシップと採用の連動を強化

福岡ベルエポック美容専門学校ブライダル科では、4年前から、学生生活の集大成としてリアルウェディングのプランニングをカリキュラムに取り入れている。

社会人としてブライダル業界に送り出す前に、リアルな現場の仕事を体験し理解を深めてほしいという意図を込めている。

会場選びは、新郎新婦の意向を最大限に尊重するが、会場を運営する企業が学校側の主旨に理解を示してくれるかどうか大きい。

今年、受け入れ先となったエスクリが運営するアルマリアンFUKUOKAでは、学生のプランニングをサポートするために、9月頃からドレスや装花のインターンシップ、サービス研修など

を行い、現場で必要なスキルやマインドをレクチャーした他、当日もサービスなど学生のサポーターとしてフォローアップを行った。

「現場感のある人材を育成したいという学校の方針や主旨には共感できました。これまでの新入社員を見ても、インターンシップ経験者など、少しでも現場に接したことのある人は飲み込みが早く、成長スピードも早い

傾向がありました。学生のうちに実際の結婚式に携わる経験をするのは意義のある教育ではないかと思います」（アルマリアン福岡 サービスリーダー近藤慧之介氏）

エスクリは全社的に、インターンシップと採用の連動を強めていく方針で、例えば、インターンシップに参加した学生には特別な選考ルートを用意するという施策も検討しているという。

会場の現役スタッフにもアドバイスを受け準備を進める

エスクリスタッフは、ドレスや装花のインターンシップ、サービス研修などを行い、現場で必要なスキルやマインドもレクチャー



結婚式当日の雰囲気を受け、涙が溢れ出す学生も

当日まで主体性を持たず、関心の薄かった学生も、結婚式当日の様子に触れ、一気に“スイッチオン”



15個ものサプライズを成功させる

プランニング・当日施行に携わった学生は1年生4名を含む総勢45名。プランナー、サービススタッフ、ヘアメイクなど、ほぼ全ての役割を学生主体でやり遂げた。

新婦は同校の元講師。プランニングに携わる学生から見れば恩師にあたるため、「先生ならどうするのが好きだろう？」などと楽しみながらプランニングに臨めたという。

これまで、引き受けてくれた新郎新婦も、同校の講師陣の知人や縁者など。「お客様」という感覚よりも、学生と一緒に創り上げていきたいというマインドを持った新郎新婦に依頼するようにしている。

この結婚式の施行にあたり、最大の“難関”は、パーティー中に仕掛けられた15個のサプライズ。それぞれのサプライズは、新郎新婦同士、父、母、兄など、驚かせたい相手が異なり、誰と誰が協力して、誰に内緒にしておかな

ければならないのかも、サプライズ1つずつ異なるため、たった一言の不用意な発言が失敗を招くという難しさがあった。

また、結婚式当日は、ブライダル会場の元支配人だった新婦の父はキャプテン、長年ブライダルの司会者として活躍してきた母はMC、兄は音響照明担当者と、家族も“オペレーションメンバー”として巻き込んでおり、進行表を渡す必要があった。だが、それぞれに事前に知られてはならないサプライズが用意されていたため、進行表に盛り込むわけにいかない。そこで、全てのサプライズが盛り込まれた進行表とは別に、誰に見られても支障のない進行表を用意して必要なことだけを共有することにした。全体を把握しているのは学生とアルマリアンFUKUOKAのサポートメンバーだけという状況だ。

結婚式のテーマは「find out」。新郎が、原石の発掘などを行う研究者であることからインスピレーションを受けた。たくさんのサプライズ演出を通じて、お互いへの気持ちや絆などを見つ

け出したり、発見できる日になるようにという願いが込められている。会場装飾にも、虫メガネや電球といったアイテムを取り入れ、テーマを表現した。



新婦は同校の元講師。学生にとっては恩師の結婚式で思い出もひとしお。

プランナー、サービススタッフなど、ほぼ全役割を学生主体で完遂

パーティー中は15個ものサプライズを成功させるというのが最大の難関。プロでも難しいオペレーションを成し遂げた経験は大きな自信に



Interview

ゲストの表情を
目の当たりにした瞬間、
学生に“スイッチ”が入る

— 学生の皆さんにお聞きます。リアルウェディングを手掛けるという経験や結婚式場での研修を通して、学んだことは？

瑞泉 私は、チャペルからパーティー会場へゲストを誘導する「チャペラー」を担当しました。チャペルやパーティー会場、動線など、全ての状況を把握して、お客様をスムーズに誘導するという役割です。フロアの異なるチャペルとパーティー会場の様子を的確に把握するために、誰に何を聞くべきか戸惑い、前日には不安で涙も流していました。

でも当日は、「結婚式って素敵だな」という気持ちで一杯になりました。サプライズのたびに、ゲストの方々も涙を流して会場全体が温かい雰囲気包まれる様子に接し、「準備は大変だったけど、こういうシーンに立ち会えるのは幸せだ」と実感しました。

末永 プランナーとして打合せを担当しましたが、ヒアリングや他のメンバーとのコミュニケーションの難しさを痛感しました。例えば、新婦に「こんなことがしたい」とリクエストを受けると、やりたいことがどういったことなのかをヒアリングすることで精一杯、実現させるために何が必要なのか、誰にサポートしてもらえばいいのか、といった部分まで考えが及ばないこともありました。

また、1つ1つの進行を実現させるために、どのメンバーとどんな情報を共有すべきかという点も悩んだ点の1つです。サービス担当など、特に当日まで新郎新婦に会わないメンバーなどには、全てを共有し過ぎると途中で変更が入ったりした場合



福岡ベルエポック美容専門学校
2年 末永理奈 / 2年 太田百合菜 / 2年 瑞泉有紗

に混乱させてしまうこともあるからです。

プランナーは衣装や装花など結婚式に関わる全体を把握しておかなければならないというのも、改めて実感しました。先生に「ビューティーの状況はどうなっているの？」と聞かれて、把握できていなかった時などは「はっ」としました。

太田 私の担当はご両親のケアをする「ペアレンツ」です。事前に、アルマリアン福岡で4回、サービス研修に入らせていただいた時には、ご両親がどんな気持ちで当日を迎えているのか、想像を膨らませるようにしました。ご両親の傍で接していると緊張が伝わってきて、少しでもリラックスしていただくためにやれることは何だろうと、アンテナを張り巡らせ、ドリンクを用意したり荷物を運んだりしました。

本番は、新婦のご両親を担当したのですが、お2人ともブライダル業界の大先輩で、私より結婚式の知識も経験も豊富、当日運営のメンバーとして進行も把握していらっしゃいます。そんなご両親に対する私の役割は、お嬢様の晴れ姿をしっかりと見届けることに集中していただくことだと考え、的確なタイミングでアクションを促すタイムキーパーになろうと意識して行動しました。

— 先生から見て学生の皆さんのプラン

ニングや当日の動きはいかがでしたか？

鬼丸 短期間で大きく成長した学生の姿を見て、改めて「結婚式の力」を実感しました。準備段階では、特に、新郎新婦との接点が少ない学生などは、プロジェクトに対する温度感も低くなりがちで、主体性も芽生えにくい様子でしたが、結婚式当日、新郎新婦入場のシーンや、ゲストの表情を目の当たりにした瞬間、当日まで関心の薄かった学生も涙を流すなど、一気に“スイッチ”が入ったのが分かりました。

当日のサプライズ15個というのは、プロでも難易度の高いオペレーションだと思いますが、それをやり遂げたというのは自信につながったのではないかと思います。

— 学生の皆さんは、第一線で活躍されているプロの目にはどのように映りましたか？

近藤 当日、フォローアップに入ってみて、学生の皆さんの一生懸命な姿には心を打たれました。真剣かそうでないか、肌で感じるものです。

プロとしてお客様に言われて一番辛いのは「会場スタッフにとっては何百組中の1組」という言葉です。学生の皆さんの様子に触れ、1組1組、常に新鮮な気持ちで臨もうと、改めて肝に銘じました。



ヒアリングや他のメンバーとのコミュニケーションの難しさを痛感

末永理奈



ご両親に少しでもリラックスしていただけるようにアンテナを張り巡らせていました

太田百合菜



当日は、結婚式って素敵だなという気持ちで一杯になりました

瑞泉有紗